

第5次安城市子ども読書活動推進計画(案)パブリックコメント意見募集結果

1 意見募集の概要

- (1)意見募集期間 令和7年12月14日(日)～令和8年1月14日(水)
- (2)周知の方法 広報あんじょう(12月号)、市公式ウェブサイト、及び市LINE公式アカウント
- (3)閲覧場所 図書情報館、市民交流センター、へきしんギャラクシープラザ、各地区公民館、子育て支援総合拠点施設(あんぱ〜く)、子ども発達支援センター(あんステップ♪)、観光案内所(KEYPORT)及び市公式ウェブサイト
- (4)意見を提出できる方 ①市内に在住・在勤・在学している ②市内に事業所などを有する ③市内で活動している ①～③いずれかに該当する方
- (5)意見提出方法 住所・氏名とご意見を記入し、持参か郵送、FAX、電子メールでアンフォーレ課まで提出 ※あいち電子申請・届出システムでも募集

2 意見募集の結果概要

- (1)意見提出人数 3名
- (2)意見件数 6件
- (3)提出方法 持参0名、あいち電子申請・届出システム2名 電子メール1名 郵送0名 FAX0名
- (4)結果の公表 広報あんじょう(3月号)、市公式ウェブサイト、図書情報館、市民交流センター、へきしんギャラクシープラザ、各地区公民館、子育て支援総合拠点施設(あんぱ〜く)、子ども発達支援センター(あんステップ♪)及び観光案内所(KEYPORT)

3 提出された意見及び市の考え方について

【意見区分】

- A:ご意見を受けて加筆・修正したもの 2件
- B:ご意見の考え方が現行案に含まれていたもの 1件
- C:現行案のとおりとしたもの 2件
- D:案に関連する質問など 1件

No.	計画案の該当箇所	ご意見の概要	市の考え方	計画への反映	意見区分
1	P9以降 第4章 具体的な取組みと推進体制 「読み聞かせ」について	P9 上から5行目 「読み聞かせや一斉読書など本に出会える機会を創出することを目的とした取組みを、乳幼時期から切れ目なく発達段階に応じて行っていきます。」とされている。 P10 乳幼児期～就学前では保育園等での読み聞かせについて記載があるが、P11 小学生 P12 中学生では「一斉読書」について触れられているものの、「読み聞かせ」について記載がない。 現状では各小中学校において「一斉読書」と並行して、ボランティア団体による「読み聞かせ」が実施されており、「子どもたちの多様な興味、関心に応じられる本に出会える機会を提供」している。申請した団体に対し市から補助金も出ている。 「発達に応じた取組み」の中に位置付けなくても良いのか。	学校で実施されるボランティア団体等による読み聞かせについては、小学生はP11の「出前おはなし会」、中学生はP12の「出前講座」の中で実施していることから、「読み聞かせ」の文言は記載しておりませんでした。ご指摘を受けて修正させていただきます。	P11小学生の取組例の「機会」で「新美南吉出前授業や出前おはなし会で、聞き手の読書意識を高める読み聞かせやブックトーク※4を行う。」、P12中学生の取組例の「機会」で「聞き手の読書意識を高める読み聞かせやブックトークなどを出前講座で行う。」に修正します。また、読み聞かせやブックトークは出前講座やおはなし会の中で実施するものであるため、P14の表内「出前講座やおはなし会、ブックトークの実施」につきましては「出前講座やおはなし会の実施」に修正します。	A
2	第2章 子どもの読書活動の現状と課題 ・乳幼児期における読書活動の重要性、および家庭・保育関係機関との連携に関する記述 (概ね 5～6ページ付近)	乳幼児期からの読書活動の重要性を計画の中で位置づけている点は、大変意義深いと感じます。 一方で、家庭や保育所・認定こども園における実践をさらに後押しするため、保護者および保育現場に向けた具体的な支援内容を、より明確に示すことを提案します。 例えば、 ・保育所・こども園等で実施できる読み聞かせの実践例の提示 ・保護者向けの年齢別絵本選びガイドや啓発資料の作成 ・図書館と保育施設が連携した出張読み聞かせや職員向け研修 など、現場ですぐに活用できる支援メニューを計画の中に明示することで、乳幼児期の読書環境がより一層充実すると考えます。 乳幼児期は読書習慣の基礎が育まれる重要な時期であるため、実践につながる具体性を持った記載を期待します。	年齢別おすすめ本冊子の作成や、読み聞かせの研修など、ご提案いただいた取組みについては現在実施しており、P10の「乳幼児期～就学前の取組例」「環境」に「相談ができる体制を整える。」として記載してあります。今後も継続して実施してまいります。	左記の市の考え方に基づき、計画(案)のとおりとさせていただきます。	B

No.	計画案の該当箇所	ご意見の概要	市の考え方	計画への反映	意見区分
3	第3章、4章 基本方針および施策の展開 ・中学生・高校生世代の読書活動推進に関する取組 ・デジタル媒体や情報発信に関する記述 (概ね 9～11ページ付近)	中学生・高校生の読書習慣について、読書離れが課題として整理されている点は適切であると感じます。 一方で、この世代の生活実態を踏まえると、SNSやデジタルツールを活用した取組に加え、体験型の読書活動を取り入れることが有効であると考えます。 例えば、 ・中学生・高校生が、乳幼児や小学生に向けて読み聞かせを行う体験型イベント ・図書館や保育所、こども園と連携した世代間交流型の読書活動 ・ボランティアや探究学習、地域活動として位置づけた読書体験の機会 などを設けることで、中高生自身が「読む側」から「伝える側」へと立場を変え、読書の意味や楽しさを再発見できる機会になると考えます。 このような体験は、自己肯定感の向上や地域とのつながりづくりにも寄与し、継続的な読書習慣形成につながると期待されます。 あわせて、 ・SNSやWebを活用した本の紹介 ・電子書籍等のデジタル媒体の活用 ・学校図書館と公共図書館の連携強化 など、中高生の興味・関心や生活スタイルに合った多角的な取組を計画の中で具体的に示していただきたいです。	体験型の読書活動につきまして、中学生においては職場体験を通じて図書館や読書に興味を持ってもらう機会を提供しており、P12中学生の取組例に記載しております。 高校生におきましては、ご指摘を受けて追記させていただき、参加型の事業だけでなく、体験型事業の実施も検討してまいります。 後段の多角的な取組につきましては、P12中学生、P13高校生の取組例に記載しております。	P13高校生の取組例の「機会」に、「図書や読書に興味・関心を持つ講座やイベントを行う。」を追加します。	A
4	「読み聞かせボランティア」、「図書館ボランティア」、「学校図書館ボランティア」という名称について	ボランティアの総称なのか、呼称なのか定義が曖昧に感じました。	計画内に記載のある「読み聞かせボランティア」は、図書情報館や各公民館、保育園、学校等でおはなし会を実施しているボランティアを指します。 また、「図書館ボランティア」「学校図書館ボランティア」については本計画に記載はありません。		D
5	学校図書館に関するボランティアについて	当校で言うと、「図書ボランティア」について。(読み聞かせボランティアとは別)募集について触れていませんが、市全体でボランティア数を増やす取り組みが必要だと思います。各校ボランティアの数に格差があり、学校によっては、司書1人で本の修理、ブックかけ、蔵点を担っているとも聞きます。当校は、図書ボランティアさんにとっても助けられています。	学校図書館で活動する図書ボランティアの業務や必要人数は各学校によって異なっており、各学校の判断で募集等行っていることから、市全体でボランティア数を増やす取組は必要と考えていますが、図書館教育アドバイザーと連携し、学校図書館との情報交換を行いながら、より良い環境づくりに努めてまいります。	左記の市の考え方に基づき、計画(案)のとおりとさせていただきます。	C
6	学校司書のスキルアップ	スキルアップ研修期待します。 ただ、スキルアップ以前に新人司書の指導も大切だと思います。これは、私個人の経験から申し上げます。学校という組織、環境についてのレクチャー、年間の仕事内容などマニュアルがあるとよいです。前任者と共に仕事をするとベストです。初めての仕事で、引継ぎもない、指導体制も整っていない環境は、精神的にもかなり厳しいものでした。	新人司書の指導や引継ぎについては、学校教育課や各学校で実施していくことであり、本計画で位置づけるものではありませんが、図書館教育アドバイザーと連携し、学校図書館との情報交換を行いながら、より良い環境づくりに努めてまいります。	左記の市の考え方に基づき、計画(案)のとおりとさせていただきます。	C